錦織遺跡 II

富田林市遺跡調査会報告14
編集・発行　富田林市遺跡調査会
住　　所　〒584-8511
　　富田林市常盤町１番１号
発行年月日　1998年３月31日

調 査 地　大阪府富田林市錦織東１丁目537-1
調査原因　事務所新築
調査主体　富田林市遺跡調査会
調査担当者　平方扶左子
調査面積　10.5㎡
調査期間　1998年２月16日～３月31日

はじめに

錦織遺跡は富田林市の南部に広がる縄文時代から中世にかけての遺跡で、石川左岸の河岸段丘上に立地しています。その範囲は南北900ｍ、東西300ｍに及び、遺跡の南端には、白鳳期の錦織廃寺も重なっています。1968年に縄文時代前期の北白川下層式の土器が出土したことでその名前が知られるようになり、市内で最初に発見された縄文時代前期の遺跡として位置づけられてきました。1989年の関西電力の鉄塔建替工事に伴う発掘調査で、掘立柱建物の柱痕とともに、緑釉の円面硯や塼が出土し、奈良時代の集落が存在することが明らかになりました。富田林市南部には「百済郷」と呼ばれる集落があったと日本書紀に記されており、遺跡の南側にある錦織廃寺や西側にある細井廃寺との関連が注目されます。今回の調査は、事業主である川坂正一氏の協力を得て行いました。

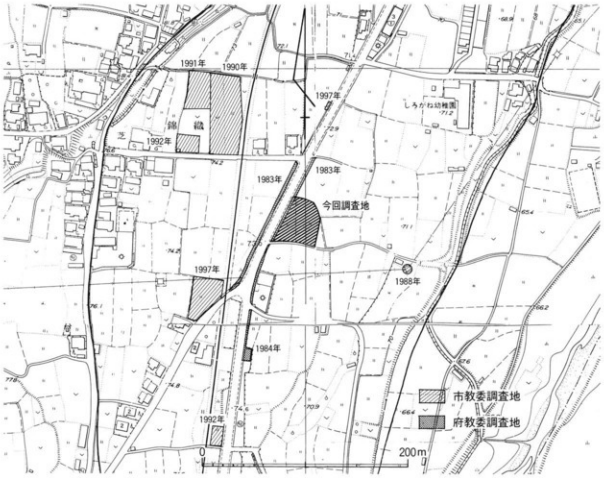

図１　錦織遺跡調査地位置図

地形と層序

調査地は、旧国道170号線の東側に接しています。発掘調査は南北4.2m、東西2.5mの小規模なトレンチ調査で行いました。

調査地の堆積層は上から順に、第1層（耕土）、第2層（床土）、第3層（濁灰黄色混砂弱粘質土）、第4層（濁黄灰色粘質土）で、水田面は2面検出されました。それらを取り除くと地山面に達します。遺構はすべてこの面で検出されています。

遺構と遺物

今回の調査では、土坑3、ピット13を検出しました。（図2）埋土は暗灰黄褐色粘質土と暗褐灰色弱粘質土の2種類で、暗灰黄褐色粘質土が大半を占め、暗褐灰色弱粘質土は土坑2・土坑3・ピット5のみです。

土坑1　調査地南西端部で検出しました。形状は不整形で、検出規模は幅1.34mで、土坑2によって切られています。深さは0.26mを測り、埋土は暗灰黄褐色粘質土です。

土坑2　調査地南西端部で検出しました。形状は不整形で、検出規模は東西約0.73m、南北約0.76mで、直径約10cmから20cmの円礫が混入していました。深さは0.55mを測り、埋土は二層あり、1層目が暗褐灰色弱粘質土、2層目は濁黄灰褐色混砂粘質土です。

土坑3　調査地北東端部で検出しました。形状は不整形で、検出規模は幅1.21m、深さは0.25mを測り、埋土は暗褐灰色弱粘質土です。遺物は生駒西麓山の胎土をもつ羽釜片1点、土師器片2点と直径約20cmの円礫が底から1点出土しています。

ピットについての詳細は表1を参照されたい。遺物は、第4層目から土師器小皿片1点、サヌカイト片1点、第3層目から須恵器片3点、土師器の甕と考えられるものが1点、不明が2点あります。

まとめ

今回の調査は、狭い面積であったこと、遺構から遺物が出土しなかったことから、残念ながら遺構の性格を知る手掛かりを得ることができませんでした。唯一、遺構の埋土が2種類認められることから、新旧関係があることがわかりました。

過去の調査地周辺の発掘調査では、奈良時代とそれ以前の遺構が存在することが判明していますが、今回の遺構との関連は不明な点が多く、今後の調査成果に期待するものです。

参考文献
・『平成4年度富田林市内遺跡群発掘調査概要』富田林市教育委員会（1993）
・『錦織遺跡発掘調査概要』　国道170号線設置に伴う調査－大阪府教育委員会（1984）

種　別	形　状	規　模(m)	深さ(m)	土　色	遺　物
ピット1	不整形	0.31 ×(0.16)	0.05	暗灰黄褐色粘質土	
ピット2	不整形	(0.22)× 0.31	0.08	暗灰黄褐色粘質土	
ピット3	円　形	0.30 × 0.28	0.06	暗灰黄褐色粘質土	
ピット4	円　形	0.38 × 0.32	0.04	暗灰黄褐色粘質土	土師器
ピット5	円　形	0.20 × 0.24	0.27	暗褐灰色弱粘質土	
ピット6	不整形	0.14 ×(0.04)	－	暗灰黄褐色粘質土	
ピット7	円　形	0.18 × 0.18	0.05	暗灰黄褐色粘質土	
ピット8	円　形	0.34 × 0.28	0.05	暗灰黄褐色粘質土	
ピット9	不整形	(0.14)× 0.22	0.03	暗灰黄褐色粘質土	
ピット10	円　形	0.26 × 0.24	0.03	暗灰黄褐色粘質土	
ピット11	円　形	0.20 × 0.16	0.16	暗灰黄褐色粘質土	
ピット12	不整形	0.18 ×(0.10)	0.08	暗灰黄褐色粘質土	
ピット13	不整形	0.25 ×(0.20)	0.1	暗灰黄褐色粘質土	

表1　ピット一覧表

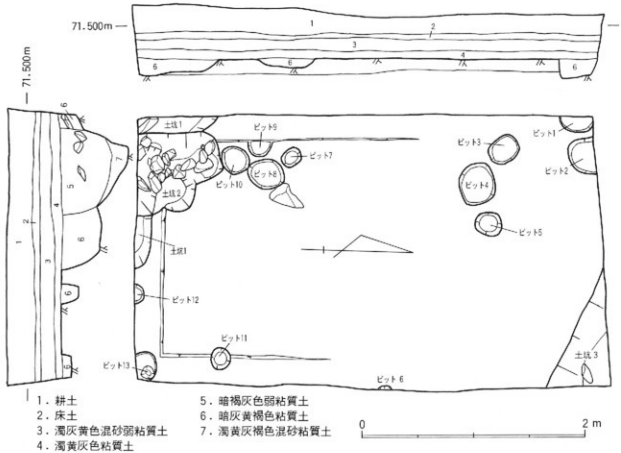

図2　遺構平面図・断面図

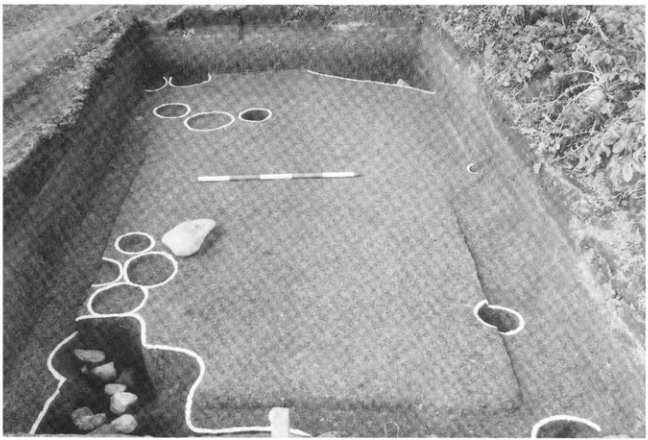

写真1　調査区全景（南から）

報告書抄録

ふりがな	にしこおりいせき
書　　名	錦織遺跡
副 書 名	富田林遺跡調査会報告14
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	平方扶左子
編集機関	富田林遺跡調査会
所 在 地	〒584－8511　大阪府富田林市常盤町１番１号　☎0721－25－1000
発行年月日	西暦1998年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
錦織遺跡 (にしこおりいせき)	大阪府富田林市 (おおさかふとんだばやしし) 錦織東１丁目 (にしこおりひがし) 537－１	2714		34° 29′ 06″	135° 35′ 33″	1998.２.16 ～ 1998.２.31	10.5	事務所新築

所収遺物	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
錦織遺跡	その他	奈良時代～	土坑・ピット	土師器・須恵器・サヌカイト	